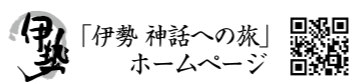


編集発行・伊勢御遷宮委員会
伊勢市岩淵1-7-17(伊勢商工会議所内)
電話0596-25-5215



伊勢のごせんぐう

お木曳、そして御遷宮を目標に
御遷宮に関わる伊勢の民俗行事、その伝統を市民総参加で！

お木曳 きひき で繋がる伊勢の町衆、 それぞれの世代の役割をもって

お木曳行事が動き出す

お木曳行事が動き出す。神宮と共にある伊勢のまちでは、20年ごとの御遷宮やその関連行事を基軸にさまざまな事業が計画されたり、人生の節目と考えるような習慣が現代でも根付いています。

御遷宮諸祭行事の始まりは令和7年(予定)。気が早いようですが、お木曳の準備は少しずつ動き出しました。伊勢市内全域で、お木曳が近づくにつれ奉曳団が結成され、それぞれ地域住民に参加を募ります。地区によって違いがありますが、お木曳への参加者や財源を集める



写真は平成18年お木曳行事記録から

ところからはじまり、それぞれが自主運営されます。

伝統を支える一人ひとり

地域活動の機会が少ない現代、お木曳への参加は貴重な経験であり、何より参加することで新たな繋がりが生まれ、日々の暮らしの充実にも活かされます。伊勢で生まれ育った人はもちろん、縁あってこの地で暮らす方々に積極的に参加していただくことは、まちにとって大きな力となります。

実働として運営にあたる世代があり、その苦労を経験した上の世代はそれぞれのできることで支えます。また、若者や子どもたちは、その年代でしか経験できないお木曳を楽しむこと。それが伊勢の伝統行事の継承に繋がっていくのではないのでしょうか。

神嘗祭を奉祝する初穂曳 はつほびき

未だコロナ禍の中、
対策を行いながらの初穂曳。
外宮領では三年ぶりに
陸曳奉曳を実施しました。

第51回を迎えた初穂曳。今回も新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの実施となりました。その上で外宮領陸曳については人数を制限し、マスクを着けての奉曳ではありましたが、たわわに実ったお初穂を載せた奉曳車の唼鳴りの音が響き、エンヤの掛け声で気持ちが揃う、慣れ親しんだ初穂曳を再開いたしました。

外宮、内宮神域にはそれぞれ神嘗祭奉祝の思いで立てられた各町ののほり旗が揃い、まさに伊勢の秋の風物詩といえる光景を見ることもできました。お木曳行事を数年後に控え、市内の町々でも準備が動き出した今、こうして少しずつ日常を取り戻し、伊勢の伝統を大切に伝えていきたいものです。



外宮領陸曳 関係者